

国際協力



2015 新春号

No.42 2015.1.1

JICA駒ヶ根



特集・青年海外協力隊事業50周年記念…	1・2	JICA長野デスクの窓から ……	4
イベントレポート ……	3	協力隊員現地レポート ……	5
国際理解教育指導者セミナー ……	3	帰国ボランティア紹介 ……	5
地球の料理教室 ……	3	JICAボランティア秋募集報告 ……	5
青年研修行いました ……	4	長野県出身新ボランティア ……	6

特集

青年海外協力隊事業50周年記念

1965年に発足した青年海外協力隊事業は今年で50周年。これまでJICAボランティア事業へご理解とご協力を賜りましたこと、感謝いたします。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

お祝いのメッセージ

駒ヶ根市 杉本幸治市長



新年明けましておめでとうございます。昨年は駒ヶ根訓練所が設立して35周年、さらに本年は青年海外協力隊事業が発足して50周年と、心からお祝い申し上げます。訓練所のあるまちとして

当市では、国際協力友好都市協定を結んでいるネパールのポカラ市との交流を始め、様々な国際事業を通じて市民にとっても国際協力が身近なものになっており、それを活かしたまちづくりを進めているところであります。第4次総合計画では、中央アルプス山麓の開発の中で大使村構想を抱いており、訓練所を中心として世界各国の魅力を駒ヶ根から発信していきたいと考えています。

世界への国際貢献・交流が必要とされている昨今において、今後ますます協力隊員の活動が期待されると思います。その中において50周年を契機に駒ヶ根訓練所が益々ご発展されることを心からお祈り申し上げます。

50周年へのお礼のメッセージ

独立行政法人 国際協力機構
青年海外協力隊事務局長
小川 登志夫



1965年に発足した青年海外協力隊事業は、今年2015年に50周年を迎えます。日本に二つしかない協力隊訓練所の

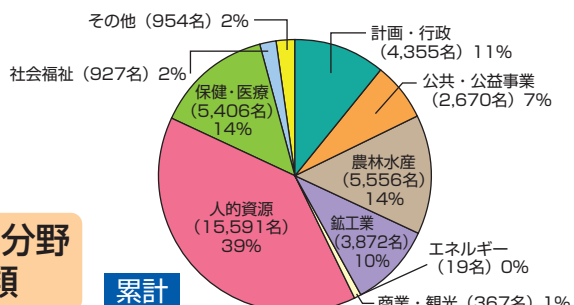
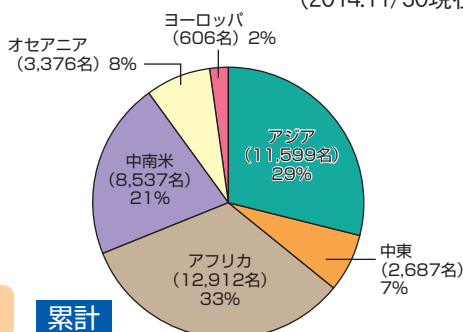
うちの一つである駒ヶ根訓練所を、開設当時より支えていただいている地元長野県の皆様に厚く御礼申し上げますとともに、協力隊事業の意義をご理解いただき、協力隊員に対し、訓練中のみならず派遣中、そして帰国後も、ご支援いただいておりますこと、大変有り難く感謝申し上げます。

今後とも、協力隊事業を多くの方々にご活用いただけるよう、なお一層長野県の皆様と連携し、取り組んで参りますので、引き続き当事業へのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

●これまでの青年海外協力隊の人数は? >>>>

(2014.11/30現在)

現在派遣中の人数 1,873名 (うち女性 1,076名)
これまでの累計人数 39,717名 (うち女性18,186名)



地域別

累計

職種の分野
分類

累計

世界から地域で活躍！ 信州で活躍する元協力隊員4人に聞きました。

- Q1：現在の活動について教えてください。
 Q2：協力隊の経験で一番印象に残っていることについて教えてください。
 Q3：今の活動に、協力隊の経験はどう生かされていますか？
 Q4：これからの夢、チャレンジしたいことを教えてください。



長野市 立石 勝利 さん

(平成12年1次隊 派遣国：バングラデシュ/
職種：体育)
長野市出身。現在、長野市裾花中学校に勤務。



Q1：「日本 × バングラデシュ 姉妹学級プロジェクト」を始めました。教え子で東京工業大学大学院生の大橋 匠さんからお誘いをいただき取り組んでいるプロジェクトです。チャットのマハム二母子寮の生徒と私のクラスの生徒と Skype やビデオレターを介した交流やロボットワークショップを通し、「日本 × バングラデシュ協同ロボット課題」を実施していく予定です。

Q2：首都ダッカで1ヶ月の語学訓練を終え、赴任地ラジシャピに赴いた4日目に大ケガをしました。部屋の清掃中に回っているファンに頭をぶつけ大出血、その時、まだ馴染みのない近所の住民が大勢で私の命を救ってくださいました。そのおかげで今があり、たいへん感謝しています。

Q3：いいと思えば失敗を恐れずにやってみる。組織はチームワークが大切。チームワークを高めるために自分が貢献できることを積極的に行うこと。わずか1ヶ月半で任期短縮になり残念でしたが、生徒たちが広く世界に目を向けて考え行動していけるようなことを提供してきました。

Q4：現職を退職したらシニアボランティアに参加したい。できれば、命の恩人のバングラデシュに行き恩返しをしたい。そのために、知識、技能、語学、そして、人間性を磨かないといけないなあ。



駒ヶ根市 永井 由美子 さん

(旧姓 滝沢)



(平成10年度3次隊 派遣国：ニジェール/職種：家政)
群馬県出身。駒ヶ根市在住。同じ元協力隊員の旦那様といちご農園を営んでいらっしゃいます。

Q1：駒ヶ根市の協力も得て、子育てひろば「ひらげごま」という親子で楽しく過ごせるような子育て支援の活動をしています。1ターンの高齡出産をし、子育ての大変さを痛感したので、同じような思いをもったお母さん達と楽しく過ごせる場所作りをしています。

Q2：赴任して間もない頃、青空屋台で食事をしている時に、自分達の後ろですーっと待っている子供達がいて、食べ残しを待っていると気づいた時、何も口にできなくなったこと。

Q3：途上国の子供達のお金や物がなくても笑顔でたくましく生きていた姿を思い出し、子育てをしていく上で大切なものは何か考えながら活動できているように思います。

Q4：全国各地にある、つどいの広場（子育て支援拠点事業）を、仲間のお母さん達とやりたいというのが目標です。また、全季節全天候型の親子で楽しめる公園があったらいいなあと思うので、何かできたらと思っています。



「ひらげごま」での絵本読み聞かせ。



木祖村 木村 次床 さん

(平成23年度2次隊 派遣国：スリランカ/職種：料理)
鹿児島県出身。木祖村在住。



Q1：現在、木曾郡木祖村で、地域おこし協力隊として働いています。木祖村は東海地方まで流れる木曾川の最上流（源流）の里。木曾川を通して交流の深い、下流域の愛知県内のイベント等に参加して、木祖村の観光アピール活動をしています。

Q2：協力隊員仲間とサークルを作り、現地の様々な学校や施設を回って栄養・食・食育に関するワークショップを行いました。参加した現地の大勢の方から「参加して良かった」と言ってもらい、手ごたえを感じ嬉しかった事。

Q3：これまで訪れたことが無く、知らなかった土地に一人で暮らし、一から生活を始めていく勇気が協力隊生活で養われ、周囲の人達の中に積極的に入っていく経験が、現在も生かされていると思います。

Q4：木祖村の自然や文化をもっともっと勉強し、村外から訪れる観光客の方に村をアピール出来る知識を身につけたいと考えています。また、国内外の観光客に向けて、地図やパンフレットの整備をしてきたいと思います。プライベートでは、海や山等の自然の中で遊び知識を身に着けたいです。

木祖村の「こだまの森」にて木祖村イメージキャラクター（源氣君）の誕生日イベントを行いました。



阿智村 森下 ともみ さん

(平成12年3次隊 派遣国：ニジェール/職種：栄養)
愛知県出身。阿智村清内路地区在住。



Q1：阿智村に来てから、村内外のいろいろな活動に加わらせてもらっています。地元のお年寄りに郷土食を教わる「家庭料理を味わう会」、福島の子供達をサマーキャンプに呼ぶ「福島に学びつなげる会」、同世代のお母さんたちと暮らしを楽しむ「清内路豊かな暮らしを育む会」、村内のお年寄りから戦争体験を語り継ぐ「子供の文化を考える会」など、関わりたいことがたくさんありすぎて悩むこともあります。

Q2：厳しい環境の中で、お互いに助け合って暮らしているニジェール人の心の豊かさを、今も時々思い出します。

Q3：派遣中ニジェールで生活していた時は、携帯電話もなく、水道もすべての家庭に普及しているわけではない“不便”な生活でしたがとても楽しかったです。ニジェールに何かを教えるに行ったというよりも現地の人たちに生きていくための基本を教えるもらったという感が強いです。物質的でない豊かさ、便利でないことで得られる豊かさを実感できるようになり、ここでの生活にも生かされています。

Q4：清内路に永住したいと考えています。いつ何が起るかわからない世の中ですが、どんなことがあっても生きていける力を子どもたちにつけてあげたい。世界に出て行っての国際協力は今の自分にはできないが、子供たちには世界の現状を知ってもらいたい。



3人のお子さんと森下さん。

イベント・レポート

Event Report



10/25

エスニック・ランチ in JICA駒ヶ根 ～駐日ネパール大使夫妻とともにネパールを感じよう～

駒ヶ根市制60周年を記念して、今年のみなこいワールドフェスタでは、訓練所で行うイベントとして、恒例のエスニック



ランチの特別編を行いました。ネパール駐日大使ご夫妻をお招きし、103名の一般参加者とネパール料理を共に味わい、駒ヶ根市と国際協力友好都市協定を結んでいるネパール第二の都市、ポカラ市と駒ヶ根市との国際交流・国際協力、ネパールでの青年海外協力隊の活動についてなど、杉本市長を交えたパネルディスカッションも行われました。

参加者の皆さんは、「ネパール大使夫妻がとても気さくにお話してくださった」、「初めて味わうネパール料理、しかもベジタリアン料理だったが、辛くなくてとてもおいしかった」など、大好評でした。

参加者とともにランチをとる、
バッタライネパール駐日大使とアンピカ大使夫人

10/26

第21回 みなこいワールドフェスタ「国際広場」

今年も、早朝より100名近くの3次隊のJICAボランティア候補者がお手伝いしてくれ、駒ヶ根市広小路などで行われました。前日に『エスニック・ランチ』で駒ヶ根入りしていたネパール駐日大使夫妻もステージに登壇して下さるなど花を添えてくれました。また、初の試みである、駒ヶ根観光協会主催の『聖地巡礼ツアー』に参加した全国各地からの協力隊OB・OGも駆けつけて、『訓練所のあるまち、駒ヶ根』の魅力を多くの方が再認識してくれたようです。

駒ヶ根訓練所の語学講師のブースで、
様々な派遣国の言葉を教わる子どもたち。



12/6.7

平成26年度「国際理解教育 指導者セミナー」 行いました!

今年は、「各自の国際理解教育の実践の課題を明らかにし、実践をより強化すること、参加教員同士のネットワークづくりをサポートすること」を目的に、駒ヶ根訓練所にて一泊二日で行いました。

県内中心にのべ14名の教育関係者が参加。 昨年に引き続き講師は(特活)開発教育協会の西あい氏と星久美子氏。国際理解教育を、実際の授業にどう組み入れていったらいいかについて、手法とコツを楽しくわかりやすく、参加者自身が参加しながら学ぶことのできたセミナーでした。

夕食懇親会では、ざっくばらんに国際理解教育への思いなども



“参加者による「学習プログラム」の発表と体験”

語ってもらいました。また、夜は遅くまで、翌日は早朝から準備して、グループごとに学習プログラムを作って、発表の場も。

2日間とても濃い時間を共に過ごした参加者の皆さん、今後もつながりたい、と自らがメーリングリストを立ち上げると宣言が!! 信州発国際理解教育の火が灯った2日間でした。JICA駒ヶ根でも、今年も国際理解教育に関わる県内の先生方とつながることを目標に、始動開始の予定です!



ようこそ
信州へ!

9月～11月 ラオス・カンボジア・インドネシアの 青年研修を行いました。



■9/20-10/2 ラオスの青年12名、伊那谷で中小企業振興を学ぶ。
(研修業務委託先:一般社団法人駒ヶ根青年会議所(駒ヶ根JC))

長野県の中小企業振興政策や伊那谷地域の中小企業や商工会議所の活動を学びました。また、駒ヶ根市民のご自宅で1泊2日のホームステイも体験。

研修員から:

「ラオスと同じ内陸に位置する長野県の中小企業がどのように発展していったのかをこの2週間で知ることができました。ラオスでも役立てていきたいです。」



杉本市長らと駒ヶ根市役所にて。



駒ヶ根訓練所での修了式にて。

■10/18-10/30 カンボジアの青年14名、職業訓練教育を学ぶ
(研修業務委託先:特定非営利活動法人SCOP(松本市))

研修員から:

「県内の様々な職業訓練を学ぶことができた。この2週間で学んだ職業訓練教育をカンボジアでも実践していきたい。また、ぜひ県内の多くの企業にもカンボジアに進出していただき、職業訓練も実施してほしい。」

日本および長野県の職業訓練教育を学ぶため、信州大学、長野工科短期大学など県内の教育機関や民間企業の視察や講義を受けました。

■11/8-11/22 インドネシアの青年13名、佐久地域の地域保健医療を学ぶ。
(研修業務委託先:一般財団法人農村保健研修センター)

佐久総合病院や佐久保健所など佐久地域で地域保健医療を実践する施設などを視察し、佐久地域を中心とする長野県における地域保健医療を学びました。

研修員から:

「佐久地域で学んだ地域医療を研修員がそれぞれの活動地域でできることから実践していきたいです!」

インドネシアで活動した元協力隊OGによるインドネシア語を使っている特別講義の様子。



JICA長野デスクの窓から♪

「地球の料理教室」
のご案内です!

前回ご紹介しました「国際協力セミナー高校生からの招待状♪」に引き続き、JICA長野デスクの1年間を通しての企画「信州国際塾」をご紹介します。今回は「地球の料理教室!」・・・協力隊OB等に途上国でのリアルな体験談を聞きながら、実際にその国の料理を作って食べてしまおう!異文化をしっかりと体験(味わって)して国際協力に対する興味を高めるイベントです。今年はブータン編(上田市)、セネガル編(長野市)、フィリピン編(長野市)を開催しました。



「地球の料理教室×TFT」の打合せ。SHIPの皆さんや協力隊OBと県庁食堂でTFT定食を食べながら♪

さて、お次は・・・2月に開催!今度は「地球の料理教室」と、日本にいながら先進国・途上国の双方の健康向上に貢献できる「TABLE FOR TWO

(※)」を組み合わせたスペシャルなイベントです!日本に、長野県にいてもできる国際貢献!

世界・自分がつながっていることを、「食」を通じて実感してほしい!そして、自分たちにも簡単にできる国際協力の形があることを知ってほしい!そんな熱い思いでJICA長野デスク×信州イノベーションプロジェクト(SHIP)さんとのコラボ☆ 乞うご期待です。



「地球の料理教室(セネガル編)」にて。

※TFT:「TABLE FOR TWO」<http://jp.tablefor2.org/>は食を通じて、途上国の人も先進国の人も双方が健康でハッピーになれる日本発の活動です。先進国の人(生活習慣病...)はヘルシーな食事を注文し、20円上乗せで払います。その20円で途上国(主に東アフリカ)の子供たち(栄養不良、飢餓...)に給食を届ける仕組みです。長野県庁でもSHIPさんの提案で10階食堂で実施しています!

協力隊員
現地レポート
from インドネシア
しみずちえ
清水千恵さん
平成25年度1次隊
職種：日本語教師
小諸市出身



私はインドネシア第2の都市であるスラバヤというところで活動しています。スラバヤにある国立大学の日本研究学科で、学生に日本語を教えたり、現地教員へ授業のアドバイスをしたり、学内外で日本文化イベントを企画・運営したりしています。



アイルランガ大学での講義風景

活動を開始して1年以上経ちますが、一番嬉しかったことは、

一緒に練習した学生が日本語弁論大会でインドネシア1位になったことです。その他にも、流しそうめんや浴衣の着付け体験会等の日本文化イベントを行った際に、参加者が笑顔になるのを見ることができるととても嬉しいです。



日本語弁論大会で1位になったルクマン君を指導中。

こちらの学生は日本のことが大好きです。授業で日本の映像を見せたり、日本での話をしたりすると、皆目を輝かせます。日本に行くことは学生たちの夢です。その夢が叶うように、これからも私にできることを全力で行っていきたいと思います。また、より多くのインドネシア人と一緒に日本文化を楽しみ、より多くの笑顔を見られるよう残りの期間も駆け抜けたと思っています。

帰国したJICAボランティアの方々

2年間の活動
お疲れ様でした!!



青年海外協力隊(H24年度1次隊 2012年6月~2014年9月)

なかかわ けいすけ

中川 敬介 さん(松本市)

●派遣国：ザンビア
●職種：陸上競技

ザンビアでは、陸上競技の普及とナショナルユース選手の強化と育成を行ってきました。普及面では駅伝



をザンビアに初めて紹介し、強化面では、陸上競技があまり普及してないザンビアで、自分で選手を集めてチームを作り、

ザンビアでも有数の強豪チームに育てることができました。一生懸命に、そして楽しそうに練習してくれる選手との出会いは私の一生の宝物です。



帰国後は、日本オリンピック委員会でオリンピック選手のサポートをする仕事に就いています。2020年の東京オリンピックでザンビアの同僚、選手と会えることを楽しみにしています。

平成26年度 JICAボランティア秋募集説明会、行いました!



駒ヶ根訓練所での「一日体験入隊」でネパール語の授業を体験

た。現地でのJICAボランティアへの支援体制等を説明

昨年9/27(土)の長野市でのJICAボランティア募集説明会を皮切りに、県内全8ヶ所で行い、約240名もの方々にご参加いただきました

をしたり、個別に異なるご質問にお答えしたり等、きめ細かなご説明ができたかと思えます。

今回の春募集も3/28(土)から説明会を開始予定! 詳細は、JICA駒ヶ根のホームページに掲載予定です。皆様のご参加、お待ちしております。



シニア海外ボランティア希望者への個別相談に応えるスタッフ

Information JICA駒ヶ根 インフォメーション

派遣前訓練公開講座

参加は無料ですが、事前にお申込が必要です。

▶ JICAボランティア事業の理念と目標

内容：JICAボランティア事業の概要及びその活動

1月16日(金) 15:10～17:00

定員：10名 講師：小川登志夫 事務局長（青年海外協力隊事務局）

▶ JICA事業概要

内容：JICAの目的・機構・歩み・現状などの事業概要

1月28日(水) 15:10～16:00

定員：10名 講師：青年海外協力隊事務局 職員

▶ 世界の宗教理解

内容：世界の宗教についての理解を深める。

2月11日(水) 14:10～17:00

定員：10名 講師：斎藤嘉文氏（元文化学院 講師）

※講師の都合等で実施日が変更になる場合がありますので、ホームページでご確認ください。
ホームページ <http://www.jica.go.jp/komagane/event/index.html>

公開講座とは・・・JICAボランティアの派遣前訓練で実施している各種講座を一般の方にも公開しているものです。会場はすべて駒ヶ根青年海外協力隊訓練所です。

▶ 国際関係と日本の国際協力

内容：日本の援助の歴史、概略、現状を理解する

2月18日(水) 15:10～17:00

定員：10名 講師：廣野良吉氏（成蹊大学 名誉教授）

▶ 異文化適応概論

内容：文化とは何か、理解とは何か、カルチャーショックとは何か、適応するとはどういうことかなどの異文化に入っていくにあたっての心構え

2月21日(土) 13:00～14:50

定員：10名 講師：関谷雄一氏（東京大学大学院 総合文化研究科 准教授）

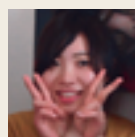
▶ 地球のステージ(コンサート)

内容：途上国で巡り合った人々との交流を映像と音楽そして語りで表現する「映像と音楽のシンクロ」ステージ。貧困生活の現状や紛争地域での子供たちの明るくたくましい姿などを映し出しながら、桑山氏自身の経験、ボランティア観を表現する。

2月27日(金) 15:10～17:00

定員：50名 講師：桑山紀彦氏（地球のステージ事務局）

平成26年度第3次隊 長野県関係者新ボランティア 行ってきます!!



たかはし みき
高橋 未来さん (佐久市)

派遣国：ペルー
職種：観光

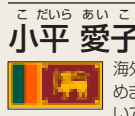
リマ市内の遺跡博物館へ派遣予定です。「観光」を通じて現地の方が自国の魅力を再認識できそれを他国に発信することで、経済の活性化に少しでも繋がれたらと思っています。笑顔の輪を広げる活動をしたいです!



しみず たくみ
清水 匠さん (宮田村)

派遣国：ジャマイカ
職種：野菜栽培

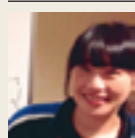
小さいころから海外の言語、文化に興味がありました。大学の授業で発展途上国の現状を知り、私自身も参加したいと思い志望しました。ジャマイカでは現地の人と一緒にその地域の生活水準を高めることが目標です。



こだいら あいこ
小平 愛子さん (佐久市)

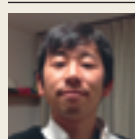
派遣国：スリランカ
職種：理学療法士

海外でのリハビリテーションの現状を知りたいと考え、協力隊への参加を決めました。スリランカでは理学療法士として、地域巡回や人々への障害についての理解を広げるためにワークショップなどを行う予定です。大変なこと多いかと思いますが、現地の方々の生活を見て多くのことを学んできたいと思っています。



やまこし
山越 さゆりさん (下伊那地区) 職種分野：医療保険

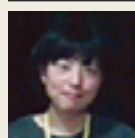
訓練期間中は、駒ヶ根訓練所で語学や協力隊活動に必要な様々な講座を受け充実した毎日でした。JICAボランティアとして派遣国で活動できることに感動しています。派遣国の生活に溶け込み、現地の人達と多くのことを共有し、共感一つでも多くのことを経験したいと思っています。



あまり たくま
甘利 琢磨さん (小諸市)

派遣国：ヨルダン
職種：作業療法士

私は大学時代の海外ボランティアの経験から、「いつか専門職としてボランティアをしてみたい」との思いがあり志望いたしました。臨床で培った経験と派遣国の文化・環境を取り入れ精一杯自助援助に努めたいと思います。



てらみち みさこ
寺尾 美菜子さん (長野市) 派遣国：カメルーン

職種：小学校教育

カメルーンで、主に音楽・図工・体育の授業や、それらについてのセミナーを行う予定です。今の自分が想像していることを上回ってくるはずの日常を楽しみながら、子どもたちと先生方と授業を創っていききたいと思います。



さいとう たつや
斉藤 達也さん (駒ヶ根市) 派遣国：インドネシア

職種：美容師

インドネシアにある障がい者職業訓練校で美容技術を伝え、生徒が学校を卒業した後の経済的自立手段の確保を目指しています。派遣国の方たちの美容に関する知識と技術が向上してくれるように一生懸命伝え、二年間たくさんの方のことを吸収していきたいと思っています。

かざま たかお
風間 隆雄さん (松本市)

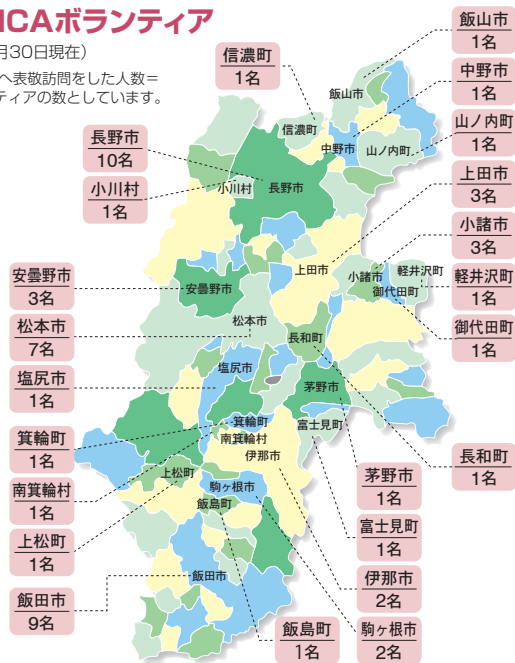
派遣国：セネガル
職種：看護師

「いつか発展途上国で看護師として活動してみたい」という夢が叶うことになりました。セネガルの病院で5S・KAIZEN・TQMの推進と指導に携わります。どれだけのことができるかわかりませんが、今までの経験を生かして活動していきたい思います。また文化や言葉の壁が不安ですが、人々との出会いで人間的に成長できたらと思います。

派遣中JICAボランティア

(平成26年11月30日現在)

※各地方自治体へ表敬訪問をした人数＝JICAボランティアの数としています。



長野県関係者 JICAボランティア派遣実績

平成26年12月31日現在

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------------|
| ①青年海外協力隊員
派遣中 54名
累計 921名 | ③日系社会青年ボランティア
派遣中 1名
累計 19名 |
| ②シニア海外ボランティア
派遣中 10名
累計 73名 | ④日系社会シニアボランティア
派遣中 2名
累計 4名 |

発行 独立行政法人 国際協力機構
駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15
TEL.0265-82-6151(代) FAX.0265-82-5336
E-mail jicakjv@jica.go.jp
<http://www.jica.go.jp/komagane/index.html>

JICA駒ヶ根 facebook ページを開設!
<https://www.facebook.com/jicakomagane>

JICA駒ヶ根 メールマガジン
☑ 配信希望の方は jicakjv@jica.go.jp
までメールでご連絡ください!

JICA駒ヶ根では毎月1回メールマガジンを配信しています。県内の国際協力に関する動きやイベントなど、耳よりの情報をリアルタイムでお届けします。